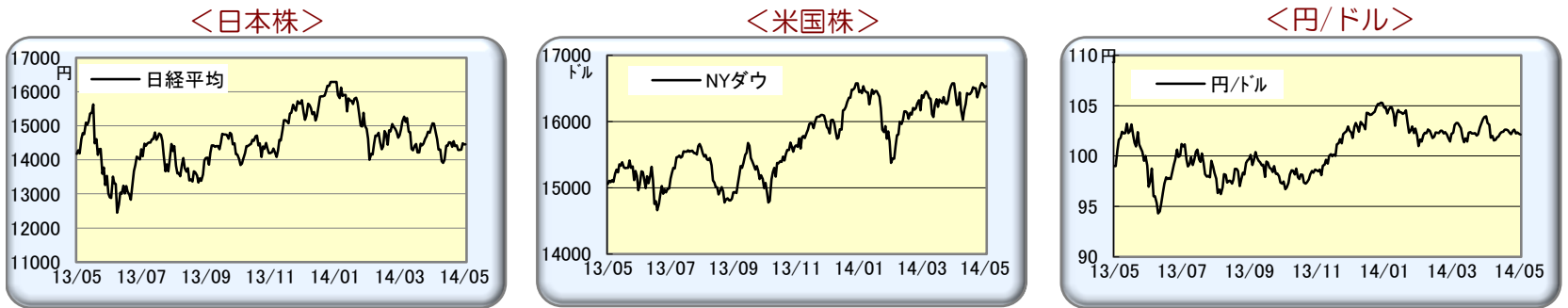


1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2013/12/31	2014/4/30	2014/5/2	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	16,291.31	14,304.11	14,457.51	16,320.22	2013/12/30	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	16,576.66	16,580.84	16,512.89	16,631.63	2014/4/4	10,404.49	2011/10/4
円/ドル	円	105.31	102.24	102.20	105.44	2014/1/2	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

週初こそ下落して始まったものの、週末にかけて市場予想を上回る米国経済指標の発表が相次いだことなどを背景に持ち直す

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+28.25円 (+0.20%)、TOPIXが+12.49ポイント (+1.07%)と週初こそ下落して始まったものの、週末にかけて市場予想を上回る米国経済指標の発表が相次いだことなどを背景に持ち直す展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、不動産業、銀行業、情報・通信業など24業種が上昇する一方、ガラス・土石製品、水産・農林業、卸売業など9業種が下落しました。週明け28日の日本株市場は、米国・欧州がロシアに対して新たな制裁措置を発動する可能性が高まったことを受けて下落して始まった後、終日安値圏で推移しました。しかしその後週末にかけては、①米国・欧州のロシアに対する制裁措置が限定的なものに留まったこと、②市場予想を上回る米国経済指標の発表が相次いだことを受けてNYダウが終値ベースで史上最高値を更新するなど米国株市場が堅調に推移したこと、③黒田日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見で、金融政策について必要があれば躊躇なく調整を行う姿勢を示したことなどから、持ち直す展開となり、日経平均、TOPIXとも先々週末の終値を若干上回って引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回	
5月7日	Wed	米国	非農業部門労働生産性	1-3月期	1.8%
			イエレンFRB(米連邦準備理事会)議長の議会証言		
5月8日	Thu	欧州	ECB(欧州中央銀行)定例政策委員会		
		中国	中国貿易統計	4月	
5月9日	Fri	日本	景気先行CI指数	3月	108.9
			景気一致指数	3月	113.0
		中国	CPI(消費者物価指数)(前年比)	4月	2.4%

決算発表予定 他	国	内容
	日本	決算発表 : 5/7 ソフトバンク、任天堂、LIXILグループ、三井物産、サントリー食品インターナショナル 5/8 トヨタ自動車、三菱商事、三菱地所、味の素、オリックス、楽天、5/9 新日鉄住金、三菱重工業、富士重工業、丸紅、日本マクドナルドホールディングス、サッポロホールディングス
	米国	決算発表 : 5/5 ファイザー、アメリカン・インターナショナル・グループ(AIG) 5/6 ウォルト・ディズニー、グルーポン 5/7 プルデンシャル・ファイナンシャル、テスラ・モーターズ 5/8 ニューズ・コープ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 14,000円台前半で下値模索の展開を予想 ~

今週の日本株市場は、東部地域で新政権の治安部隊と親ロシア派の武装勢力による武力衝突が拡大するなどウクライナ情勢が一段と緊迫化する中、14,000円台前半で下値模索の展開を予想しています。更に、週後半に発表される中国の経済指標が予想を大きく下回るようであれば、日経平均オプション5月限の権利行使価格14,400円のプット(売る権利)がやや積み上がっていることから、週末のSQ(特別清算指数)に向けては14,000円割れのリスクもあるとみています。経済指標では、中国で8日に発表される貿易統計、9日のCPIが、講演・会議日程では、7日のイエレンFRB(米連邦準備理事会)議長の議会証言、8日のECB(欧州中央銀行)定例政策委員会が重要と考えています。また、日本の決算発表では、7日に発表されるソフトバンク、三井物産、8日のトヨタ自動車、三菱地所、9日の新日鉄住金、三菱重工業、富士重工業などに注目しています。